

# 国内に残る唯一の

# 「灯台しんズ」の里帰りを実現しよう!!

## 町内産業経済団体が団結”要請運動”始まる

日本で現存する唯一の  
”第一等不動レンズ”の  
里帰り構想

神威岬灯台は、明治21年（1888年）に設置された道内5番目の灯台で、大正12年（1923年）にはフランス製の最も大きい第一等不動レンズを装着し、昭和35年（1960年）に無人化される

まで、日本海の厳しい難所の航行の安全を担ってきました。

その灯台レンズは、国内に一基しかない”灯台遺産”で、現在は、公益社団法人燈光会（東京都港区）が所有し、大阪府岬町の「みさき公園」に展示中ですが、来年3月末までに同会に返還される見通しです。

積丹町地域活性化協議会（代表・杉山 覚<sup>さくろ</sup>）は、興公社社長・構成・産業経済等8団体及び町）では、この灯台レンズの歴史的価値の高さや、昨年6月の政府の重要公共インフラ「神威岬灯台」の観光資源化登録などの新しい動きを捉えて、このレンズの里帰り構想の実現により、神威岬自然公

園の新たな活性化を目指す運動を開始しました。

また、この運動には、同灯台に勤務した灯台守とその家族の苦難の歴史や地域の人々との交流の絆の足跡を永く後世に引き継いで、「国内でも極めて貴重な観光資源化モデルとして高く評価され、積丹町が誇る観光拠点にふさわしい今後のあり方をみんなで考える契機としよう。」という、同協議会の熱い願いが込められています。

### 13名が上京して誘致活動へ 「参観灯台」の視察も

去る11月13日、同協議会では初めての全構成団体の代表等13名が参加して、この灯台レンズの里帰り構想の実現のための要望書を同燈光会へ持

参するため上京。さらに同日、国土交通省海上保安庁高杉交通部長を訪問し、実現に向けた地元の熱意を伝え、協力を要請しました。

また、翌14日には、参考事例地として毎年約10万人の観光客が訪

れる千葉県銚子市の犬吠埼灯台と、その展示資料室にある回転する巨大な第一等閃光型灯台レンズを視察し、その迫力あるレンズに、神威岬を想像しながら、運動の実現に向けて期待を膨らませました。

神威岬灯台は、平成29年に日本ロマンチスト協会から「恋



▲犬吠埼灯台に展示している回転式第一等閃光型灯台レンズ

する灯台」に認定され、また昨年、同灯台は点灯130年を迎え、灯台守の名画の上映会などの記念行事が行われました。

神威岬自然公園が、「灯台」の公益的な役割の大切さや、その歴史を郷土の財産として永く伝えていく新たな使命を担いながら、日本に誇る景勝地にふさわしい里帰り構想の実現に向けて、課題の一つひとつを乗り越えていきたいと思います。

#### ※灯台レンズ

種類：閃光レンズ・不動レンズ  
等級（大きさ）：一等〜六等

※11月10日北海道新聞（朝刊）全道版『時を訪ねて』に、神威岬伝説の歴史が2面にわたり大きく紹介されました。



現により、神威岬自然公



▲海上保安庁高杉交通部長（右側・奥から1人目）を訪問

# 美国川河川改修工事説明会

## 寺町側220m間の護岸工事を実施

工事の円滑な施工にご協力を！

美国川河川改修事業の今年度の工事計画概要の説明会が去る11月1日、総合文化センターで行われました。

北海道後志総合振興局小樽建設管理部から、新国道美国橋から上流部の寺町側の護岸約220m間の工事のほか、



▲寺町側の護岸工事

黄金橋周辺の中州の撤去、新美国橋上流部右岸の河道掘削や伐木作業を来年3月末まで実施することなどの説明がありました。

### 近年の豪雨災害への心配の声も！

出席者からは、今年の関東や東北地方の異常な豪雨災害の発生ニュースと、美国川改修計画との関連について心配の声がありました。

美国川は、昭和37年の大水害や平成10年の大雨による浸水被害の発生を教訓に、過去50年間の積丹町の気象統計に基づき、50年に1度の大雨を想定して、改修前の美国川の流下能力1秒間147.9tから410tと約2.7倍の増水に耐えられる河道に拡幅する改修計画として現在工事が

進められています。

この能力は、降雨強度（瞬間的な雨の強さを1時間あたり換算した雨量）33・9mmに耐えられる量です。今年の7月下旬に、1日で92mmの雨が降りましたが、下流部の河道拡幅工事が進んでいるため、川の水位は3分の1までしか上がりませんでした。

しかし、近年の異常気象は、想定外の豪雨記録を更新しており、国の「河川整備基準の見直し」の検討も始まったばかりです。

川の水位は、海の潮位や降雨場所など、地形や到達時間によっても変化するため、私たちは、状況に応じた避難等の準備や日常生活での気象情報への関心を高める「自助」の心構えが大切です。

### ゲンキ応援プロジェクト「健康計測会」

コエンザイム

## 還元型CoQ10でゲンキに！

町では、㈱カネカ（東京都）と連携して、地方創生事業「ゲンキ応援プロジェクト」による還元型コエンザイムQ10を活用した健康食開発の取組や、希望する町民の皆さんに還元型コエンザイムQ10のサプリメントを摂取して、元気な毎日を維持していただく取組を行っています。

10月27日には、さまざまな健康器具を体験して身体機能などを測定する「健康計測会」を行い、74人の町民が参加しました。

参加者は、握力、ひざの力、太ももの力などの筋力測定や、今回新たに心筋梗塞や脳梗塞などが発症する危険度を推測することができる頸動脈エコーのほか、骨密度や10m歩行速度、自律神経状態などの健康計測を行い、その測定結果に一喜一憂していました。

こうした取組は、道内空知管内沼田町でも始まっています。「ゲンキ応援プロジェクト」の参加者は、随時募集しています。町民であればどなたでも無料で参加できますので、興味のある方は、企画課まで遠慮なく申込みください。

